

技術資料



キラップ®

フロアブル/粉剤DL

うまい汁は吸わせない!!



- 使用前にはラベルをよく読んで下さい。
- ラベルの記載以外には使用しないで下さい。
- 本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。



©はバイエルグループの登録商標

(P-1010 15.03.IS)



Bayer CropScience

バイエルクロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262 www.bayercropscience.co.jp

お客様相談室: ☎ 0120-575-078 (9:00~12:00, 13:00~17:00 土・日・祝日をのぞく)



 Bayer CropScience

©はバイエルグループの登録商標



キラップ
フロアブル/粉剤DL

キラッと輝く殺虫剤「キラップ」!

有効成分の物理・化学的性状・安全性

はじめに

キラップ(一般名エチプロール)は、バイエルクロップサイエンスによって創生・開発されたフェニルピラゾール系の新規殺虫剤です。
キラップは非常に少ない薬量で吸汁性、咀嚼性害虫に効果を示します。また、従来の殺虫剤とは異なる作用機作を示すなどの特長があります。人畜・鳥類などに対しても安全性が高く、原体、製剤とも普通物*(人畜毒性)に分類され、使いやすい薬剤です。

キラップ粉剤DL、キラップフロアブルは1997年よりRYI-210(AVI-210粉剤DL)、AVI-382SCの試験番号で(社)日本植物防疫協会を通じ委託試験を開始し、その結果、水稻、りんご、茶の害虫に優れた効果を示すことが確認されました。本資料は、これまでに得られた本剤の特性・使用方法などを取りまとめました。キラップ剤のご理解の一助になれば幸甚に存じます。

*普通物:「毒物および劇物取締法」にもとづく毒物・劇物に該当しないものを指している通称

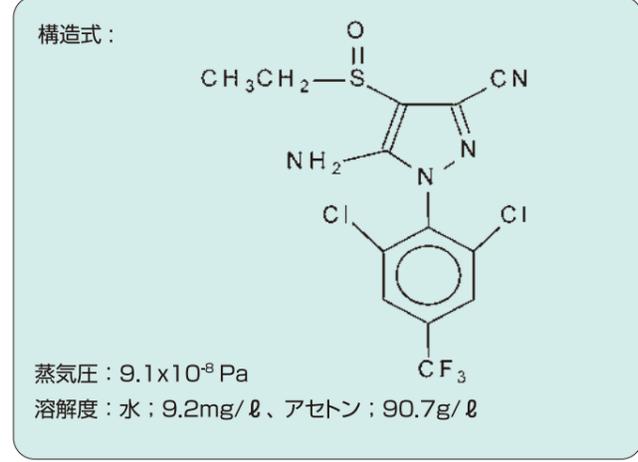
Contents

- はじめに..... 1
- 有効成分の物理・化学的性状..... 2
- キラップの安全性..... 2
- 水産動物に対する影響..... 2
- 有用昆虫、天敵に対する安全性..... 2
- キラップフロアブルの適用作物・害虫・使用方法・注意事項..... 3
- キラップ粉剤DLの適用作物・害虫・使用方法・注意事項..... 4
- 作用機作/作用経路..... 5
- 殺虫スペクトラム..... 5
- カメムシ類に対する活性..... 6
- ウンカ類に対する活性..... 7
- キラップの残効性/殺虫速度..... 7
- キラップの耐雨性..... 8
- キラップフロアブルの温度依存性..... 8
- 水稻場面での特長・適用害虫..... 9
- だいたず・えだまめ場面での特長・適用害虫..... 13



有効成分の物理・化学的性状

一般名:エチプロール(ethiprole)
化学名:5-アミノ-1-(2,6-ジクロロ- α,α,α -トリフルオロ-p-トリル)-4-エチルスルフィニルピラゾール-3-カルボニトリル



水産動物に対する影響

	キラップ粉剤DL	キラップフロアブル
水産動物		
コイ (LC50値)	>3,160mg/ℓ (96hrs)	245mg/ℓ (96hrs)
オオミジンコ (EC50 値)	694mg/ℓ (48hrs)	92.3mg/ℓ (48hrs)
藻類		
<i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> (ErC50 値)	>200mg/ℓ (0-72hrs)	153mg/ℓ (0-72hrs)
試験機関(年)	(財)化学物質評価研究機構(2001年)	三菱化学安全科学研究所(2001年)

通常の使用方法ではキラップ粉剤DL、キラップフロアブルは水産動物に対して安全な薬剤です。

安全性

試験項目	動物種	キラップ粉剤DL LD50	キラップフロアブル LD50
急性経口毒性	ラット(雌雄)	>2,000mg/kg	約2,000mg/kg
急性経皮毒性	ラット(雌雄)	>2,000mg/kg	>2,000mg/kg
皮膚刺激性	ウサギ	刺激性なし	軽度の刺激性
眼刺激性	ウサギ	弱い刺激性	極軽度の刺激性
皮膚感作性	モルモット	感作性なし	感作性なし
試験機関(年)		三菱化学安全科学研究所(2002年)	ボツリサーチセンター(2002年)

●キラップ粉剤DLは普通物*に分類されます。
●キラップフロアブルは普通物*に分類されます。
*普通物:「毒物および劇物取締法」にもとづく毒物・劇物に該当しないものを指している通称

有用昆虫、天敵に対する安全性

天敵・有用昆虫類	試験結果
蚕	キラップ粉剤DL:4kg/10aを桑に散布処理した場合の安全日数は7日。 キラップフロアブル:1,000倍、100ℓ/10aを桑に散布処理した場合の安全日数は25日。
ミツバチ	原体での経口、接触毒性試験では、強い急性毒性を示した。トマトにキラップフロアブル400倍、136ℓ/10aを散布後、経時的にミツバチを接触させる試験からは、放飼する場合には2週間後から可能。
ナミテントウ	原体の10,000倍希釈液での急性毒性試験結果では、1齢幼虫に対して影響はなかった。(死亡率:0%)
タイリクヒメハナカメムシ	キラップフロアブル1,000倍希釈液での試験結果では、2齢幼虫に対して影響が認められた。(48時間後の死亡率:96.7%)
クモ類 ケシカタビロアメンボ(圃場試験)	キラップフロアブル1,000倍、2,000倍液、100ℓ/10a散布での圃場試験では、水田での主な天敵であるクモ類に対して影響は少なく、ケシカタビロアメンボに対して影響は認められなかった。

キラップ粉剤DL、キラップフロアブルは蚕やミツバチに対して影響がありますので注意事項にしたがって使用してください。

適用作物・害虫・使用方法・注意事項

キラップフロアブル

(2015年3月現在の登録)

作物名 []は適用場所	適用害虫名	希釈倍数(倍)	10アール当り 使用液量(ℓ)	使用時期*	使用回数*	使用方法
稲 (箱育苗)	イネドロオイムシ	100~200	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 0.5/箱	移植3日前 ~移植当日	本剤 1回 エチプロール 2回 (移植時までの処理は1回)	灌 注
稲	イナゴ類	2,000	60~200	14日	2回 (移植時までの 処理は1回)	散 布
	イネドロオイムシ	16	0.8			無人ヘリコプターによる散布
	ウンカ類 カメムシ類	500	25			散 布
	1,000~2,000	60~200	空中散布			
	8~16	0.8	無人ヘリコプターによる散布			
だいでず	カメムシ類	16	100~300	7日	2回	散 布
えだまめ	2,000	200~700	21日			
かんきつ	カナタタキ チャノキイロアザミウマ			1,000~2,000		
	アブラムシ類	1,000~4,000				
りんご	モモシンクイガ キンモンホソガ ギンモンハモグリガ	1,000~2,000	14日			
	カメムシ類	2,000	7日			
かき	アザミウマ類					
マンゴー	チャノキイロアザミウマ	200~400	1回			
茶	ツマグロアオカスミカメ チャノホソガ					
水田作物 畑作物(休耕地) [ヨシオギ、ススキ、セイタカアワダチソウ等 の多年生雑草が優占している休耕地]	カメムシ類	60~200	—	2回		

*印は収穫物の残留回避のため、その日まで使用できる収穫(摘採)前の日数と、本剤およびその有効成分を含む農業の総使用回数の制限を示す。
農林水産省登録第21471号 エチプロール10.0%

■ 注意事項

- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきって下さい。
- 本剤は貯蔵中に分離することがありますので、使用に際しては容器をよく振って下さい。
- 散布液量は、対象作物の生育段階、栽培形態および散布方法に合わせ調節して下さい。
- 本剤を稲において希釈倍数500倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる兼用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用して下さい。
- 本剤を無人ヘリコプターによる散布および空中散布に使用する場合は次の注意事項を守って下さい。
 - 散布は散布機種種の散布基準に従って実施して下さい。
 - 散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用して下さい。
 - 散布中、薬液漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行って下さい。
 - 散布薬液の飛散によって動植物の被害や自動車の塗装等に被害を与える恐れがあるなど、各分野に影響がありますので、散布区域内の諸物件に十分留意して下さい。
 - 水源池、飲料用水等に本剤が飛散・流入しないように十分注意して下さい。
 - 散布終了後は次の項目を守って下さい。
 - ① 使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄して下さい。
 - ② 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄液は安全な場所に処理して下さい。
- かんきつの施設栽培及び着色始期以降での使用は、果実に薬害を生じる恐れがありますので使用しないで下さい。
 - 蚕に対して影響がありますので、周辺の桑葉にはかからないようにして下さい。桑にかかった場合には25日以上経過してから給桑して下さい。
 - ミツバチに対して影響がありますので、以下のことに注意して下さい。
 - ミツバチの巣箱およびその周辺にかからないようにして下さい。無人ヘリコプターに

- 散布および空中散布でそれらに飛散する恐れがある場合には使用しないで下さい。
 - 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用を避けて下さい。
 - 養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意し、さらに、無人ヘリコプターによる散布および空中散布に使用する場合には都道府県の畜産部局と連絡し、ミツバチの危害防止に努めて下さい。
- 散布器具、容器等の洗浄水は河川等に流さず、容器は圃場などに放置せず適切に処理して下さい。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤をはじめ使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分に確認してから使用して下さい。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 誤飲などのないよう注意して下さい。
- 本剤は眼に対して弱い刺激性がありますので眼に入らないよう注意して下さい。眼に入った場合には直ちに水洗して下さい。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して下さい。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをして下さい。
- 直射日光を避け、なるべく低温な場所に密栓して保管して下さい。
- 漏出時は、保護具を着用し布等にて吸収させ回収して下さい。
- 火災時は、適切な保護具を着用し消火剤等で消火に努めてください。
- 移送取扱いは、ていねいに行ってください。

キラップ粉剤DL

(2015年3月現在の登録)

作物名 []は適用場所	適用害虫名	10アール当り 使用液量(kg)	使用時期*	使用回数*	使用方法
稲	ウンカ類 カメムシ類 イネドロオイムシ イナゴ類	3~4	14日	2回 (移植時までの 処理は1回)	散 布
だいでず	カメムシ類	3	7日	2回	
水田作物 畑作物(休耕地) [ヨシ、オギ、ススキ、セイタカアワダチソウ 等の多年生雑草が優占している休耕地]		4	—		

*印は収穫物の残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数と、本剤およびその有効成分を含む農業の総使用回数の制限を示す。
農林水産省登録第21470号 エチプロール0.5%

■ 注意事項

- 本剤はできるだけ飛散を少なくするように製剤されており、一般の粉剤に比べ見かけ比重がやや大きく流動性が良いので、散布の際は散粉機の開度を1目盛程度しぼって散布して下さい。
- 蚕に対して影響がありますので、周辺の桑葉にはかからないようにして下さい。桑にかかった場合には7日以上経過してから給桑して下さい。
- ミツバチに対して影響がありますので、以下のことに注意して下さい。
 - ミツバチの巣箱およびその周辺にかからないようにして下さい。
 - 養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めて下さい。
- 空袋は圃場などに放置せず適切に処理して下さい。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 本剤は眼に対して弱い刺激性がありますので眼に入らないよう注意して下さい。眼に入った場合には直ちに水洗して下さい。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して下さい。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをして下さい。
- 直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管して下さい。



基本殺虫活性

作用機作

GABA (γ-アミノ酪酸) がGABAレセプターに結合すると、塩素イオンチャンネルが活性化し、塩素イオンが神経細胞に流入しシナプス後膜の電位が低下し、神経興奮が抑制されます。エチプロールは塩素イオンチャンネルの特定部位に結合し、塩素イオンチャンネルを不活性化するため、塩素イオンの流入が止まり、シナプス後膜の電位が低下せず、結果として神経興奮抑制を阻害します。

作用経路

吸汁性、咀嚼性害虫に対し低薬量で効果を発揮することから、昆虫への作用経路は、植物体表面での接触による皮膚からの取り込み及び食害、吸汁による取り込みによると推測されます。

殺虫スペクトラム

カメムシ目	アザミウマ目	チョウ目	コウチュウ目	ハチ目
アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ、 ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、 オオトゲシラホシカメムシ、トゲシラホシカメムシ、 ツマグロアオカスミカメ、ミナミアオカメムシ、 チャバネアオカメムシ、ユキヤナギアブラムシ、 ナシアブラムシ、ワタアブラムシ、 モモアカアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ、 チューリップヒゲナガアブラムシ、セジロウンカ、 ヒメトビウンカ、トビイロウンカ	チャノキイロアザミウマ、 ネギアザミウマ、 ミナミキイロアザミウマ、 ミカンキイロアザミウマ	キンモンホソガ、 モモシンクイガ、 ギンモンハモグリガ	イネミズゾウムシ、 イネドロオイムシ、 キスジノミハムシ、 コガネムシ類	カブラハバチ

カメムシ類に対する活性

● キラップフロアブルのカメムシ類に対する感受性

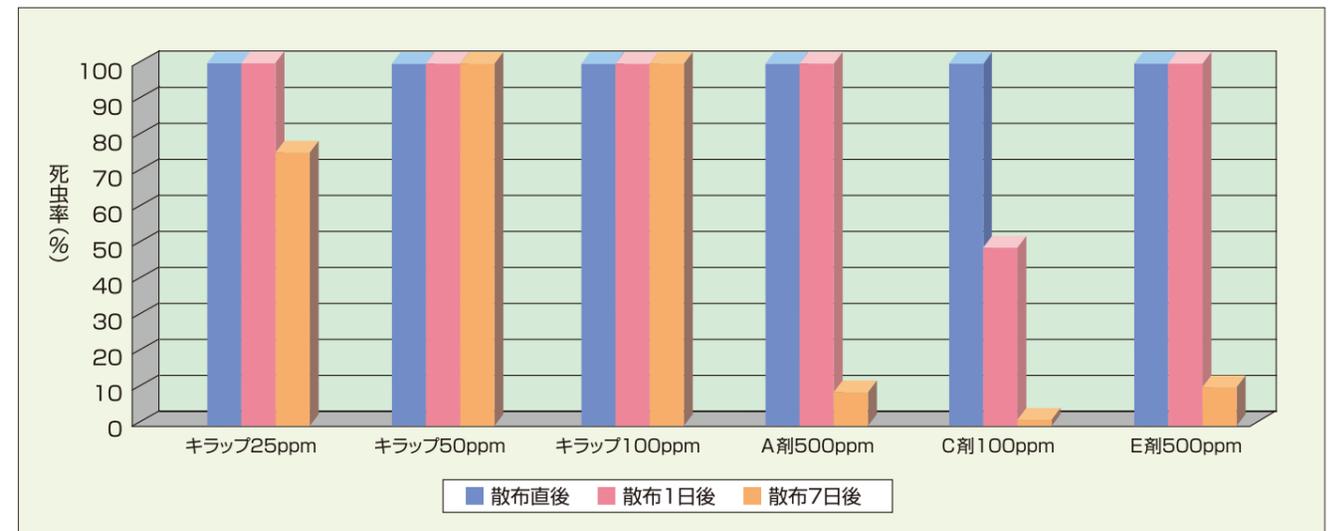
キラップフロアブルは各カメムシ種に対して優れた効果を示します。
アカヒゲホソミドリカスミカメに対しては特に優れた効果を示します。

カメムシ	ステージ	LC50(ppm)				
		キラップ フロアブル	A剤	B剤	C剤	D剤
アカヒゲホソミドリカスミカメ	成虫	0.11	35.0	35.3	23.1	1.62
	1令幼虫	0.08	22.7	83.8	3.47	2.63
アカスジカスミカメ	成虫	1.33	17.3	—	—	—
オオトゲシラホシカメムシ	成虫	2.03	9.07	8.49	12.6	3.74
ミナミアオカメムシ	成虫	0.63	6.32	5.67	14.0	7.79
	2令幼虫	2.20	7.91	16.9	11.8	3.38
クモヘリカメムシ	成虫	6.11	5.34	—	—	—
	1令幼虫	2.89	2.70	—	0.70	—
ホソハリカメムシ	成虫	6.50	7.96	10.6	15.2	4.56
ホソハリカメムシ	成虫	1.53	18.25	4.02	38.69	27.99
コバネヒョウタンナガカメムシ	成虫	2.17	15.5	9.72	12.0	2.83

乳熟期稲粉浸漬法 (バイエル クロップサイエンス(株))

● キラップフロアブルのアカヒゲホソミドリカスミカメに対する効果

散布7日後の放虫でもキラップフロアブル50ppm薬液(希釈倍数2,000倍に相当)は、
放虫2日後の100%の死虫率を示しました。



品 種：日本晴
処 理：8月30日(出穂7日後)に120ℓ/10a、散布処理直後、1、7日後に穂及び止め葉を
サンプリングし、雌成虫を放飼
調 査：放飼2日後に各区の死亡虫数を調査
(バイエル クロップサイエンス(株))



基本殺虫活性

ウンカ類に対する活性

● キラップフロアブルのウンカ類に対する感受性

キラップフロアブルは抵抗性系統*のウンカ類に対しても、感受性系統と同等な殺虫活性を示しました。

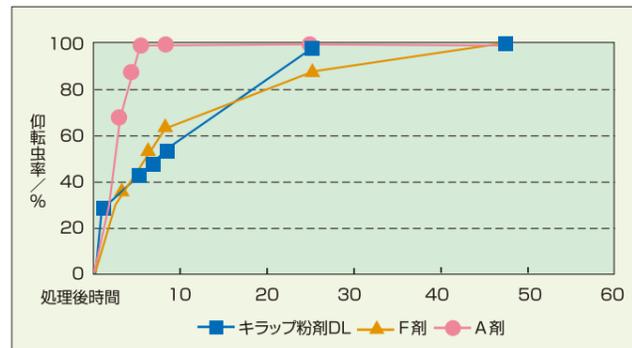
種/系統	ステージ	LC50(ppm)		
		キラップフロアブル	A剤	C剤
トビロウンカ 感受性系統	成虫	0.399	4.20	1.18
トビロウンカ 有機リン抵抗性系統	成虫	0.354	250.0	2.73
ヒメトビウンカ 感受性系統	成虫	0.476	0.860	2.99
ヒメトビウンカ 有機リン抵抗性系統	成虫	0.206	24.1	1.58
セジロウンカ 感受性系統	成虫	0.549	0.611	2.73

* 有機リン剤、カーバメート剤抵抗性系統
 稲苗に薬液を散布し、散布1時間後にウンカ類を放虫、放虫3日後に死虫数を調査。
 (平成16年 バイエル クロップサイエンス(株))

キラップ粉剤DLの殺虫速度

● オオゲシラホシカメムシに対する仰転虫率

キラップ粉剤DLは比較的速やかな殺虫速度を有します。対照の有機リンA剤ほど速くありませんが、24時間後には仰転虫率100%を示します。

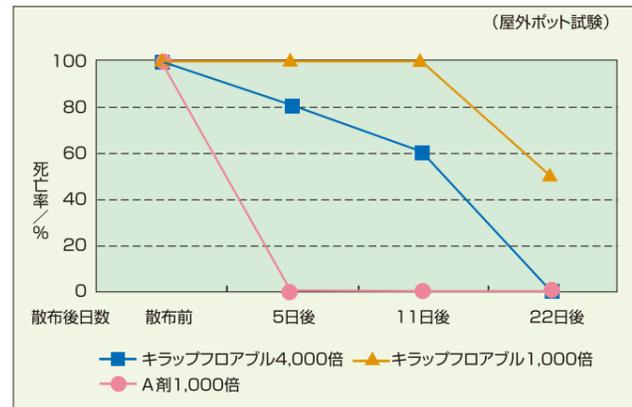


4kg/10a相当量を散布し、所定時間後の仰転虫を調査。
 (バイエル クロップサイエンス(株))

残効性

● 穂揃い期散布によるアカヒゲホソミドリカスミカメに対する残効性

キラップフロアブル1,000倍液散布11日後の放虫でも100%の死虫率を示しました。



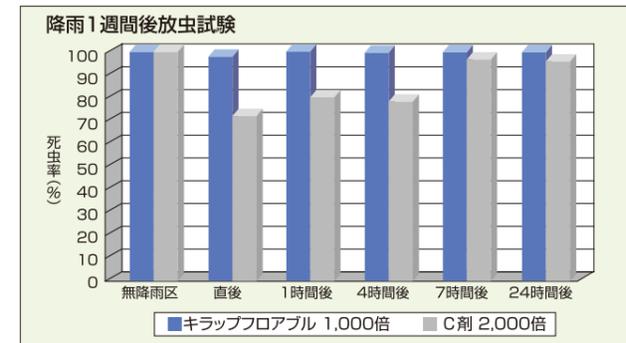
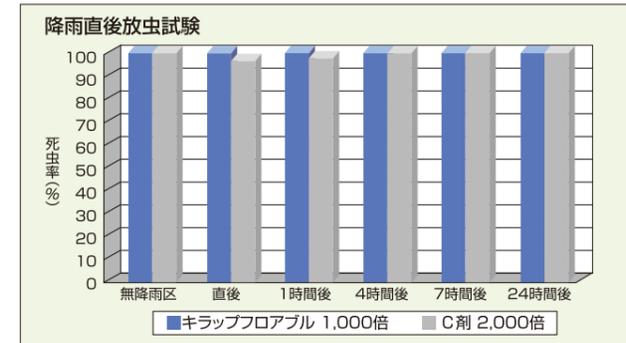
穂揃い期に散布し、散布後所定日に放虫。放虫2日後に死虫率を調査。
 (バイエル クロップサイエンス(株))

耐雨性

キラップフロアブル、キラップ粉剤DLは、ともに優れた耐雨性を示します。

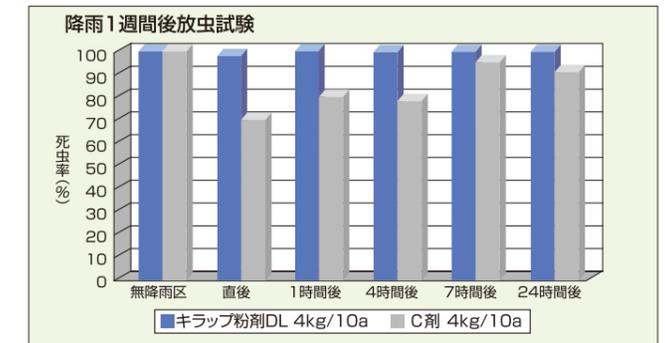
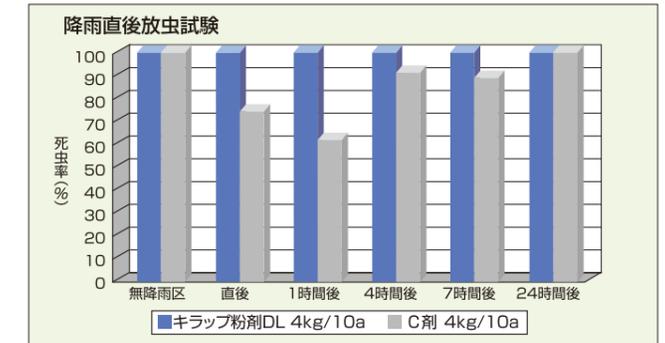
人工降雨から1週間後に放虫した試験結果でも、散布直後に降雨があっても殺虫活性は低下しないことが示されました。

● キラップフロアブルの耐雨性



キラップフロアブル1,000倍希釈液を稲に散布し、所定時間後に人工降雨装置を使用し、50mm/hrの人工降雨を1時間降させた。葉が乾いた後にトビロウンカ成虫を放虫し、48時間後の生存数、死虫数を調査し、死虫率を算出した。降雨後1週間後にも同じ区で放虫試験を実施した。
 (平成16年 バイエル クロップサイエンス(株))

● キラップ粉剤DLの耐雨性

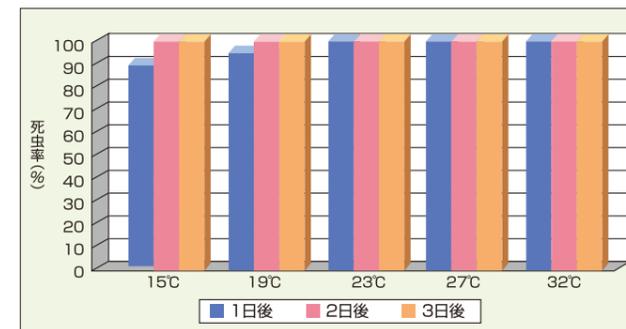


キラップ粉剤DL 4kg/10a相当量を稲に散布し、所定時間後に人工降雨装置を使用し、50mm/hrの人工降雨を1時間降させた。葉が乾いた後にトビロウンカ成虫を放虫し、48時間後の生存数、死虫数を調査し、死虫率を算出した。降雨後1週間後にも同じ区で放虫試験を実施した。
 (平成16年 バイエル クロップサイエンス(株))

キラップフロアブルの温度依存性

● オオゲシラホシカメムシに対する殺虫効果の温度依存性

キラップフロアブルは低温(15℃~19℃)で効果発現が僅かに遅延する傾向が認められますが、温度依存性はないと考えられます。



水稻の穂をキラップフロアブル2,000倍液に10秒間浸漬し、風乾後プラスチック容器に移し、カメムシを放飼。放飼1、2、3日後に死虫数を調査し死虫率を算出。
 (バイエル クロップサイエンス(株))

水稻場面での特長

特長

- カメムシ類、特に最近問題となっているアカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメやミナミアオカメムシに対して優れた効果を示します。また、ウンカ類に対しても高い効果を示します。
- 従来の茎葉散布殺虫剤とは作用性が異なりますので、他剤に感受性の低下した害虫にも効果が期待できます。
- 水田の主要な天敵であるクモ類に対して影響は少なく、アメンボに対してもほとんど影響はありません。

上手な使い方

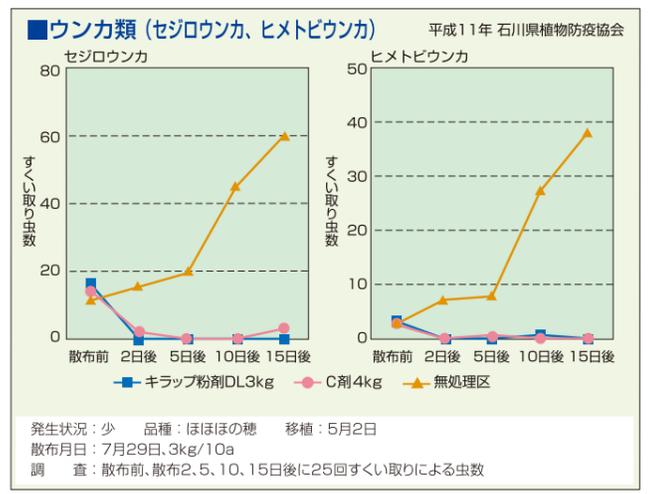
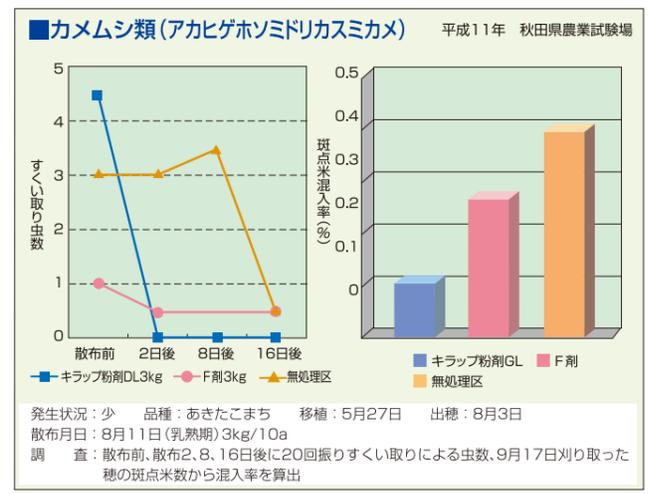
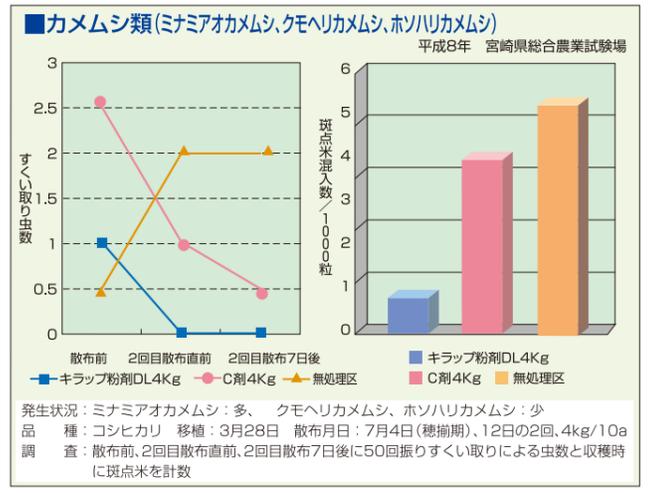
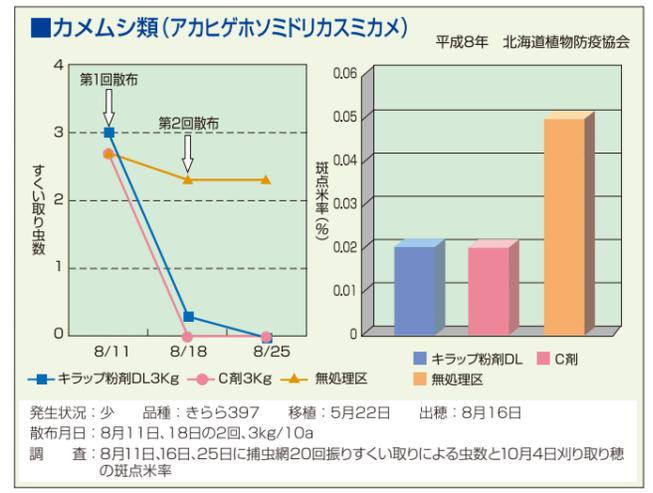
- アカヒゲホソミドリカスミカメに対しては、出穂の7~10日後、及びその7~10日後散布敵期です。
(地域で推奨されている散布時期に従って下さい。)

キラップ粉剤DLの適用害虫・使用方法

[稲、水田作物、畑作物(休耕田)の抜粋] (2015年3月現在の登録)

作物名 []は適用場所	適用害虫名	10アール当り 使用量(kg)	使用時期*	使用回数*	使用方法
稲	ウンカ類 カメムシ類 イネドロオイムシ イナゴ類	3~4	14日	2回 (移植時までの 処理は1回)	散布
水田作物 畑作物(休耕田) [ヨシ、オギ、スキセイトカアワダチソウ 等の多年生雑草が優占している休耕田]	カメムシ類	4	—	2回	

*印は収穫物の残留回避のため、その日まで使用できる収穫前日数と、本剤およびその有効成分を含む農業の総使用回数の制限を示す。
農林水産省登録第21470号 エチプロール0.5%



キラップフロアブルの適用害虫・使用方法

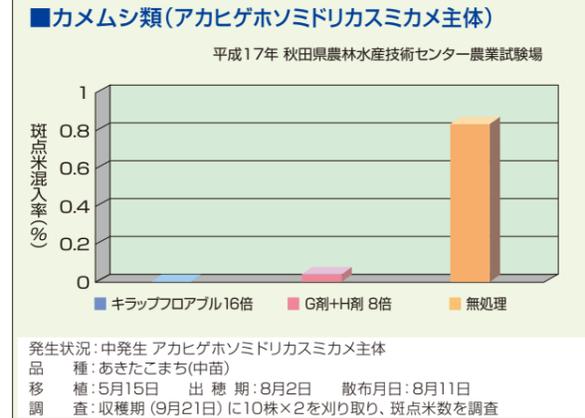
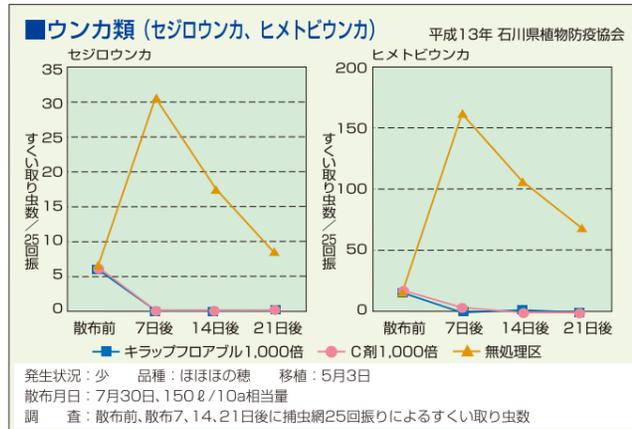
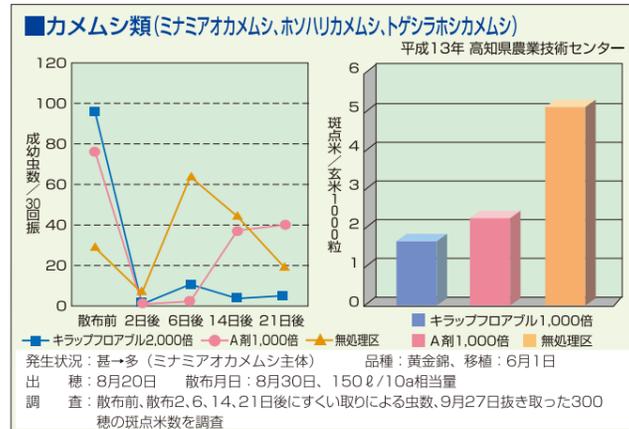
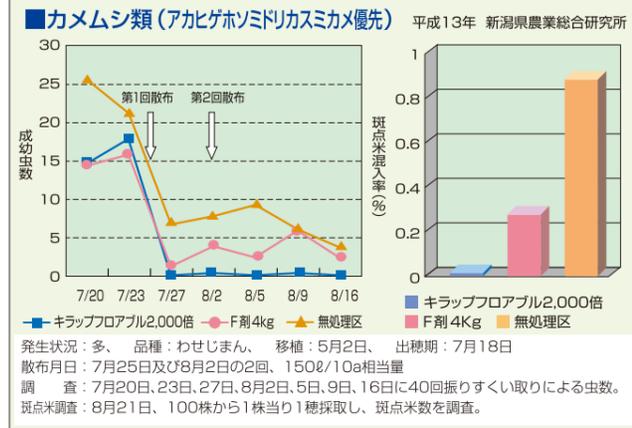
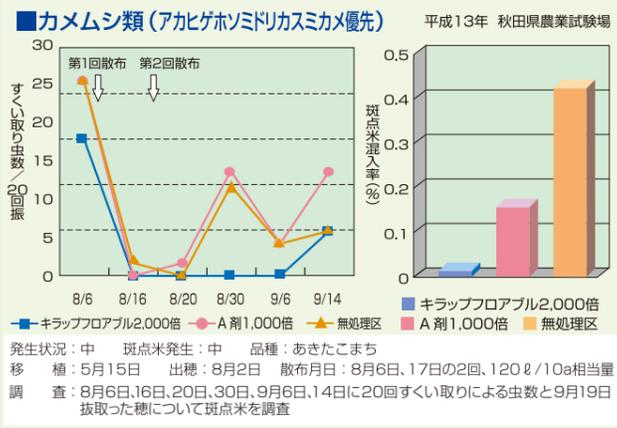
[稲(箱育苗)、稲、水田作物、畑作物(休耕地)の抜粋]

(2015年3月現在の登録)

作物名 []は適用場所	適用害虫名	希釈倍数(倍)	10アール当り 使用液量(ℓ)	使用時期*	使用回数*	使用方法
稲 (箱育苗)	イネドロオイムシ	100~200	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 0.5/箱	移植3日前 ~移植当日	本剤 1回 エチプロール 2回 (移植時までの処理は1回)	灌 注
稲	イナゴ類	2,000	60~200	14日	2回 (移植時までの 処理は1回)	散 布
	イネドロオイムシ	16	0.8			無人ヘリコプターによる散布
	ウンカ類	500	25			散 布
	カメムシ類	1,000~2,000	60~200			空中散布
水田作物 畑作物(休耕地) [ヨシオギススセイタカアワダチソウ等 の多年生雑草が優占している休耕地]	カメムシ類	2,000	60~200	—	2回	散 布

*印は収穫物の残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数と、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

農林水産省登録第21471号 エチプロール10.0%



■ 水稻における他剤との混用事例

分 類	薬剤名	通常散布	少量散布	無人ヘリ散布
殺菌剤	アミスターエイト	●		●
	カスミン液剤	●		●
	カスミンバリダシン液剤			●
	カスラブサイド 水和剤	●		
	カスラブサイドソル	●	●	●
	カスラブバリダソル	●	●	●
	デラウスフロアブル		●	●
	ノンラスフロアブル	●	●	●
	バリダシンエア			●
	バリダシン液剤5	●	●	
	ビームゾル	●	●	●
	フジワン乳剤	●		
	ブラシン水和剤	●		
	ブラシンゾル			●
ブラシンフロアブル	●	●		
ブラシンバリダソル			●	
ブラシンバリダフロアブル	●			
モンカット水和剤	●			
モンカットフロアブル	●	●		
モンセレンフロアブル	●	●	●	
ラブサイドフロアブル	●	●		
殺虫剤	アブロード水和剤	●		
	アブロードフロアブル	●	●	
	トレボン乳剤	●		
	MR.ジョーカー-EW	●		●
殺虫殺菌剤	カスラブジョーカーゾル	●		●

注) 1. 少量散布: 速度運動式地上液剤少量散布
2. 無人ヘリコプターによる散布



だいず・えだまめ場面での特長

特長

- だいず・えだまめの子実を加害するカメムシ類に優れた効果を発揮します。最近問題となっているミナミアオカメムシにも卓効を示します。
- 長い残効があります。
- 普通物で安全性の高い薬剤です。
- 収穫7日前まで使えます。



キラップフロアブルの適用害虫・使用方法

[だいず、えだまめの抜粋] (2015年3月現在の登録)

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	10アール当り使用量(ℓ)	使用時期*	使用回数*	使用方法
だいず	カメムシ類	16	0.8	7日	2回	無人ヘリコプターによる散布
えだまめ		2,000	100~300			散布

*印は収穫物の残留回避のため、その日まで使用できる収穫(摘採)前の日数と、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。
農林水産省登録第21471号 エチプロール10.0%

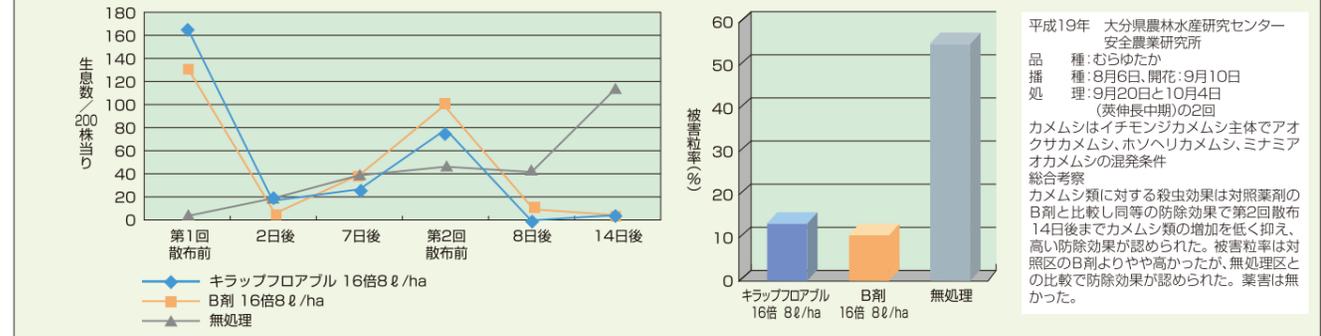
キラップ粉剤DLの適用害虫・使用方法

[だいずの抜粋] (2015年3月現在の登録)

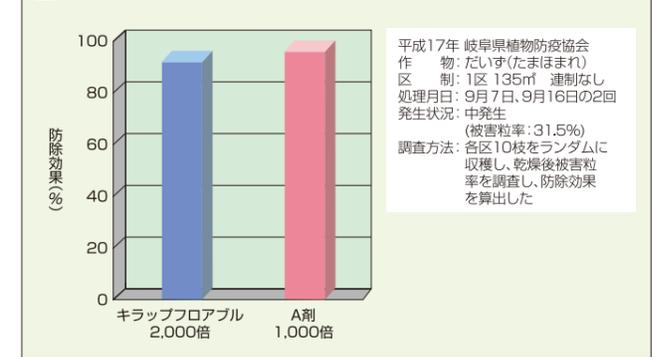
作物名	適用害虫名	10アール当り使用量(kg)	使用時期*	使用回数*	使用方法
だいず	カメムシ類	3	7日	2回	散布

*印は収穫物の残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数と、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。
農林水産省登録第21470号 エチプロール0.5%

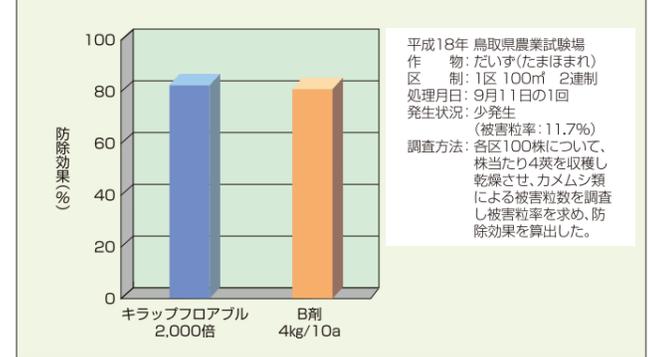
■無人ヘリコプター散布によるカメムシ(イチモンジカメムシ、アオクサカメムシ、ホソヘリカメムシ、ミナミアオカメムシ)類に対する効果



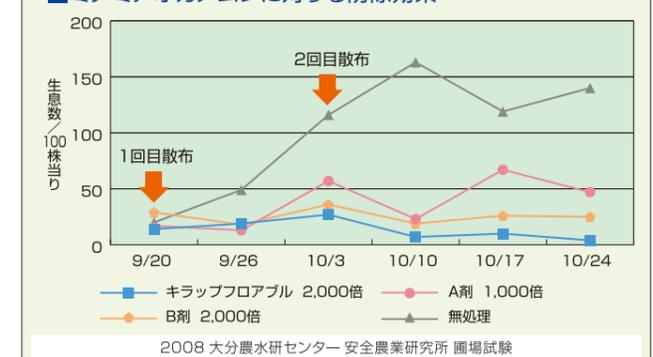
■カメムシ類(アオクサカメムシ、ホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ)



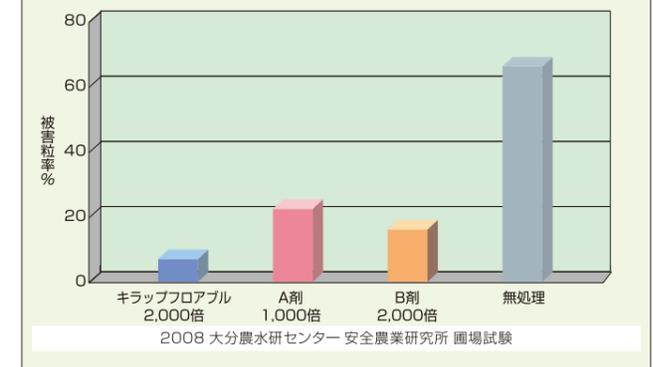
■カメムシ類(ホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ)



■ミナミアオカメムシに対する防除効果



■被害粒率



■他剤との混用事例

分類	薬剤名	通常散布	無人ヘリ散布
殺菌剤	アミスター20 フロアブル	●	●
	ゲッター水和剤	●	
	サンリット水和剤	●	
	ドイルボルドーA	●	
	トップジン M 水和剤	●	
	トップジン M ソル		●
	フェスティバル C 水和剤	●	
	ベルコート水和剤	●	
	ベルコート フロアブル	●	●
	ホライズンドライブフロアブル	●	
殺虫剤	マネージ DF	●	
	リゾレックス水和剤	●	
	ロブラール水和剤	●	
	アグロスリン乳剤	●	
	アタプロン乳剤	●	
	アデオン乳剤	●	
	アドマイヤー顆粒水和剤	●	
	エルサン乳剤	●	
	オルラン水和剤	●	
	スタークル液剤 10	●	
	スタークル顆粒水和剤	●	
	スミチオン乳剤	●	
	ゼンターリ顆粒水和剤	●	
	ダントツ水和剤	●	
	トルネードフロアブル	●	●
	トレボン乳剤	●	
	ノーモルト乳剤	●	●
	バイジット乳剤	●	
	バイスロイド乳剤	●	
	フェニックス顆粒水和剤	●	
プレバゾンフロアブル	●		
マトリックフロアブル	●	●	
マラソン乳剤	●		
モスピラン水和剤	●		
ラービフロアブル	●	●	
ロムダンフロアブル	●		
ロムダンエア	●	●	



*上記薬剤は、キラップフロアブルとの混用によって、薬害が認められなかった組み合わせのものです。品種、栽培条件、気象条件、生育ステージなど条件が異なる場合があります。あくまでも混用の目安として下さい。